



Luncheon Seminar 2010

第 85 回「天然生理活性物質の教育と研究を通して」

Date: 2010年12月22日(水) 12:15 - 12:50

Place: 組合事務室2階 (生涯学習教育研究センター隣)
↑現在、工事中です。迂回してお出てください。

Speaker: 柳沢 忠さん (農学部分会)



話題提供者からのコメント

専門分野: (1) ビタミンやホルモンなど生物活性物質は生物 (微生物、植物、動物) によってどのような経路で生合成されるのか？。

(2) 作られた化学物質 (内因性物質) はどのようにして生理作用を発揮するのか？。(3) さらに他の生物になぜ影響を与える (外因性物質、薬理作用を示す) のか？。複雑に見える有機化合物をこの3つの観点から見つめ直してみましよう。有用生物の生命の仕組みが判ってきます。

農学部で化学を学ぶ意味が、(農林水畜産業の) 生産物の利用 (ポストハーベスト) からスタートしましたが、現在は直接的な食糧の生産 (プレハーベスト) や貯蔵法、流通、調理法にまで広がって来ていることが解ります。

さらに、これらの物質の発見に至る研究法 (生物検定法、単離精製法および化学構造決定法) と作用機序の (免疫学的手法および遺伝子工学的手法を使用する) 動的な研究法を講義しています。